

この 1 枚



冬の上高地・梓川とケショウヤナギ

山行報告

★御前山(11月4日)

参加者 会員(健常者5名、障害者3名)
会員外(健常者1名)

今日は天気予報があまり良くなく、午後からは少し雨も降るかなと思っていたが、一度も雨に降られることはなく、昼頃には青空も見られるようになっていた。

猿橋駅で全員集合する。今日は、Kさんがお試し参加だ。山の経験は4年とのことだが、茂倉岳や苗場山などにも登っているとのこと。今

後が楽しみだ。



神楽山への急坂を登る

猿橋駅から車道を歩き、登山道を目指す。登山口が近づく頃、霧のような細かい雨を感じた

が、濡れることはなく、雨具も出さなかった。登山口からまずは杉林を登る。そして尾根に出る。尾根の左側は、雑木林になっていたので明るく、気持ちも明るくなる。

最初のピークとなる神楽山への登りは、痩せ尾根もあり、急坂が続き、なかなか厳しい。ロープの張られた所も出てくる。(しかし、ここはまだ厳しいうちに入らなかった)

神楽山の山頂は展望がなかった。少し休憩して出発する。



御前山山頂にて

神楽山から御前山へは30分ほど歩く。御前山の山頂は岩場になっていて、展望がよいことは分かっていたが、片側がすっぱり切れ落ちていて、近づかないように気をつける。山頂からは、九鬼山が近くに見え、鈴ヶ音峠から高畑山方面も見えていた。ここも看板には秀麗富岳十二景と書かれていた。今日は雲が多く、残念ながら富士山は見えなかった。鈴ヶ音峠への道路に沿って民家の集落が見える。最奥には数件の家が見えている。あんな山奥にも人が住んだなと感心する。

山頂で早い昼食を摂り、後半の山道を歩く。途中にある八五郎岩は、大きな岩場だった。高さは15mほどだろうか？そこを通過し、沢井沢の頭に登り返す。紅葉はあまりきれいとは言えないが、ところどころで色づいた葉を見つける。それより驚いたのは、ツツジの花が咲いていたことだ。しかも満開の木もあった。今回の縦走中に何回も見られた。

沢井沢の頭からしばらく下る。M君は大月に

行きたいという。お母さんは「大月に行こうね」という。しかし、御前山の山頂で集合写真を撮り忘れたので、菊花山の山頂で写真を撮ることにする。M君は、大月で撮ればよいと言っているらしい。みんなが話しているのを聞いているのだろう。菊花山に登ると言う話になると、M君はおとなしくなってしまう。もう登りはしたくないのだろう。

沢井沢の頭からの下りも、急坂の連続でなかなか大変だった。今回は、御前山まで一人も会わなかったのだが、この下りで数人であった。「急坂が続きますね」と話したら、「この先もあるよ」と言っていた。

菊花山への登りが始まる。M君は問題なく登ってくる。山頂付近は、かなりの痩せ尾根だった。山頂に着くと、すばらしい展望だ。大月の町、岩殿山、その向こうには権現山方面が見え、左奥は雲の中だが、大菩薩方面だ。右手に目を転じると、百蔵山と扇山が見える。中央線ではあずさが走って行く。Iさんが「ジオラマを見ているようだ」というが、まさにジオラマだ。途中では、富士急を走る富士山ビュー特急も見えた。



菊花山にて

菊花山で集合写真を撮り、下山にかかる。途中であった人の言葉がよく分かった。今回の縦走の核心部は、菊花山からの下りにあった。滑りやすい岩場で、鎖とロープの連続。標高差で200m位はあっただろう。長く厳しい下りだった。M君もがんばって下ってくる。パニックになる事もなかった。Fさんのサポートはお試

し参加のKさんが行い、後でNさんがサポートする。KRさんのサポートはSさんとSKさんが行く。すばらしいチームワークで下ってくる。



ようやく鉄塔のあるところに出て、急坂は終わった。M君に「楽しかった？」と聞くと「楽しかった」と返ってきた。それを聞くと癒やされる。最後はいつものようにコンビニに立ち寄って、駅に着く。

予想を遙かに超える厳しい山でしたが、みなさんの協力のおかげで、無事に下山できました。ありがとうございました。 記：網干

《参加者の感想》

紅葉と秀麗富嶽景を楽しみに参加しましたが、想像以上の急登が続き、岩をよじ登るようだったり滑りやすい急坂になったり、痩せ尾根

★登山知識及び技術養成コース（二子山）（11月11日）

参加者 会員(健常者2名)

今日はすばらしい天気にも恵まれた。昨日も晴れたので、一昨日に降った雨も乾き、岩場はフリクションが効いて、快適に登れるのではないかとと思われる。

今回は二人だけの参加になってしまったため、タクシーでは費用負担が重くなりすぎるため、自己責任でレンタカーで行くこととした。

登山口に近づくと、二子山の岩峰が間近に見えるようになる。切り立った岩壁が正面に見え、

が現れたり…。

美しい紅葉はあまり見られず、富士山も厚い雲に隠れていたのがむしろ、幸いでした。足元に集中できましたので…(^_^);

それでも、菊花山から見えた大月の街はジオラマそのもの！！御前山からの眺望も同様、眼下に広がる街や集落、近くの山々を楽しめてよかったです。

緊張が続く山行で、途中は弱音をはいていた長男ですが、終わってみれば、岩を登ったり下りたりしたのが楽しかったそうです。ありがとうございました。 記：F.I



コースタイム

猿橋駅(9:10) … 登山口(9:25) … 神楽山(10:35-10:40) … 御前山(11:05-11:50) … 菊花山(13:15-13:35) … 大月駅(14:35)

すばらしい景観だ。気を引き締めていきたい。



登山口近くに車を止める。すでに何台も止っていた。車道に沿って少し歩くが、地図ではこ

んなに車道を歩くようになっていなかったと思い、スマホの地図で確認すると、登山道を大きく外れて、反対側に行く車道を歩いてしまっていた。すぐに引き返し、登山道を見つけて登っていく。

登山道は、沢に沿って付けられている。滑りやすい箇所にはロープが付けられていた。雑木の林は、色づき始めていた。柔らかな色合いがとてもきれいだ。



紅葉がすばらしい

登るにつれて、鮮やかに色づいた木々が現れるようになる。Mさんも私も、今年の秋で、一番きれいに色づいていると意見が一致する。真っ赤に色づいた木々が次々に現れる。今回の山行でも、この付近が最も色づいていた。

そこから少し登ると股峠に到着する。紅葉した木々の間に西岳が少し見えている。すごい岩峰のようだ。



東岳の登りで西岳の写真を撮るMさん

まずは、東岳へと向かう。急斜面を登り、やや左寄りに行くと、ヤマレコで確認していた鎖場が現れる。やや外側に振られそうになるので、慎重に登る。その上も、ロープが張られていた。

久しぶりの急な岩場なので、少し怖く感じる。

そこを登り切ると視界が開けてきて、西岳の岩峰が目に見え。さらに登ると、東岳山頂の見えるところに出る。岩稜を歩いている人たちが見える。西岳は、近寄りがたい要塞のように堂々と聳えている。南側には両神山が見え、そこから右手側には赤岩岳方面へのギザギザの岩稜が続いている。両神山の左奥に見えていたなだらかな山容の山は、雲取山ではないかと思われた。

少し登っていくと、「網干さん」という声がある。二人の人をロープで確保しながら歩いていたプロガイドのKさんだ。3年ぶりくらいの再会になる。Kさんは仕事なので、手短かに挨拶して別れる。



東岳山頂にて

東岳の南側もすっぱり切れ落ちている。ふらついたりしないように慎重に歩く。東岳山頂に到着し、少し早い昼食タイムとする。女性二人が登ってきた。バスの話をしていたので、三峰口からバスを乗り継いできたようだ。ほとんど休憩せずに下っていった。この二人がスーパーウーマンとはその時は気づかなかったが、西岳で再会してから、この二人のすごさが分かった。

休憩後、展望台まで行ってみることとする。切れ落ちた右側に注意して歩く。展望台はさすがに展望がよい。近くの白石山とその奥に武甲山が見える。左手には父不見山(ててめえじやま)も見えている。他の山はよく分からなかった。

展望台にいと、男性から声がかかった。展

望台にもう一人立つことが出来ますかとのこと。当然できるので、来てもらう。せっかくなので写真撮影のお手伝いをMさんがしてくれる。話を聞いていると、東岳の登りで、とても下れないような岩場を登ってきたらしい。下るルートが分かるか心配なので、一緒に下ってほしいとのこと。問題ないので、一緒に下る。彼の話は、とても楽しく、Mさんと山仲間アルプに入ってくれたら、人気者になるねと話していた。



東岳の展望台でのMさん

彼は、下から見ると、鎖場の手前にある凹角を登ってきたらしい。これは3級以上のグレードがありそうな岩場だ。まだ登山を始めて3年とのことだが、登り技術はかなりありそうだ。

股峠に到着し、ハーネスを付ける。ここで、単独行の彼と別れて、西岳に向かう。



西岳の上級コースを登るMさん

登山道を歩いていると、一般コースを行ってしまいそうだったので、途中にあった踏み跡をトラバースしていく。すると、ヤマレコにたくさん写真が掲載されていた「上級者コース」の看板があった。取り付きから上を見ると、ホー

ルド、スタンスはたくさんありそうだが、慎重を期してロープを付ける。そして、私がトップで登り始める。



二子山西岳山頂にて

立木で確保し、Mさんに登ってもらう。問題なくすぐに登ってくる。さらにもうワンピッチ登る。ホールド、スタンスが豊富で、楽しく登れる。Mさんも順調だ。もうワンピッチ登ると、傾斜が落ち、岩場も少なくなり、ほぼ終了点と思われた。そんな時、上から女性二人が下りてきた。東岳で出会った二人だった。間違っ一般コースを上ってしまい、ここに来た意味がないので、上級コースを下っていくとのこと。ここを下るとは、強者だと感心する。



西岳の稜線を行く (Mさん撮影)

少し登ると、最初のピークに到着する。少し先に山頂標識のあるピークが見える。今いるところ

が1峰、標識のあるところが2峰のようだ。岩壁の方からはクライマーも登ってきた。ここからの稜線も両側が切れ落ちて面白そうだ。

山頂標識のある2峰で休憩する。ここにも別の二人の女性がいたので、Mさんと二人での写真を撮っていただく。遠くを見ると、山々のさらに向こうに見える山がある。きっと南アルプスではないかと思われた。

2峰から先の稜線もとても楽しいコースだ。しかし、左側はすっぱり切れ落ちている。右側



岩場を下る (Mさん撮影)

も急角度で切れ落ちている。痩せた岩稜を慎重に歩いて行く。岩稜を右に左にと岩を越えながら歩いて行く。少し行って振り返ると、さっき上級コースを下っていったスーパーウーマンの二人が後にいるではないか。上級コースを下って、また登り返してきたとのこと。間違いなくスーパーウーマンだ。



西岳の岩壁を振り返る

振り返ると、2峰から切れ落ちた岩壁がすごい迫力で迫っている。スーパーウーマンの二人にも、「後がすごいよ」と教えてあげる。

しばらく岩稜を歩き、3峰と思われるところを通過する。そして魚尾道峠への下りにある鎖

場の付いた急な岩場を下る。さらに少し行くと、東岳で会ったガイドのKさんたちに再会した。少しハングした岩の所で、休憩していた。私たちはそのまま下っていくことにする。



岩場を下る Mさん

峠と思われるところで、鹿除けの網が張られたところに、道がよく分からないという単独の男性が待っていた。扉のようになっていないので、網を越えてよいのか迷ったらしい。赤テープは網の向こうに付けられているので、よく網を観察したら、1本のひもで網を編むようにして固定されていた。そのひもを途中まで外して網の向こう側に出る。



最後の鎖場を下る Mさん

あとは、安全な山道歩き。樹林の切れたところから二子山の西岳と東岳がよく見える。岩質は全く違うが、錫杖岳前衛フェースを思い出させてくれる屏風のような岩の壁だ。

樹林帯は、午後の斜光線が差し込み、紅葉と相まってとてもきれいだった。ススキは、逆光を受けて輝いている。背景の両神山とのコントラストが美しい。

予定時間より30分ほど早く車道に飛び出

した。後からスーパーウーマンのグループが追いついてきて、写真を撮ってほしいとのことなので、二子山を入れて撮る。「あとはビールでしょ」という二人は、とても楽しそうだ。バスの時間までまだ1時間くらいあるとのことなので、Mさんの運転するレンタカーに乗ってもらうことにする。



下山コースから見た西岳

二人は、やはりスーパーウーマンだった。トランをやる一人は、転倒して腕を骨折しても走り通したり、清里から赤岳に登り、権現岳、

★浅間嶺（清掃登山）（12月2日）

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)

今日は、好天の予報だったが、少し雲が多い。浅間嶺は、とても展望の良いところなので、多少雲があっても、周囲の展望を期待したい。

人里（へんぼり）でバスを降りる。昭文社の地図では、バス停の少し先に登山道があるように書かれているので、行ってみるが、道標はない。SDさんが自治会館にいた方に聞いたら、少し戻ってから舗装道路を上がるとのこと。駐車場を突っ切って行ってみると、舗装道路があったので、それを上っていく。

道路の横には、とがった岩の石垣が続く。積み上げるのに相当の時間を要したのではないかと、根気のいる作業を成し遂げたことに頭が下がる思いだ。

最後にある一軒家から登山道に入っていく。

編笠山を縦走し、小淵沢まで日帰りで行ってきたこともあるとのこと。尾瀬の長蔵小屋から15kgのザックを背負って2時間半で燧ヶ岳を往復し、小屋の人から働かないかとスカウトされたりしたとのこと。もう一人の女性も、冬の権現岳から赤岳に縦走しているらしい。二人とも超人だ。

そんな楽しい話をしながら、二人を西武秩父駅で降ろし、私とMさんはレンタカーを返しに長瀬駅に向かう。

すばらしい岩稜、美しい紅葉、懐かしい人との出会い、一期一会かも知れないけど、とても楽しい人たちとの出会い、そんな思い出多い山行となりました。 記：網干

コースタイム

坂本登山口(10:20)…股峠(11:10-11:20)…東岳(11:45-12:30)…股峠(12:55-13:05)…西岳(13:50-14:05)…坂本登山口(15:20)

木々の色づきはあまり良くないようだ。植林帯や竹の林も通過していく。さらに登ると、山腹に家が建っている。家の前に、「平成29年8月13日に、テレビ朝日の”ポツンと一軒家”で放送された一軒家であることが紙に書かれてある。家の前を歩いてみる。



とても展望がよく、南秋川を隔てた対岸の山がよく見える。その山腹にハートマークがあるらしい。伐採後の形がハートマークに見えるの

で、きっとそれだろうということになる。奥には、井戸もある。上のカエデがきれいに色づいている。

そこからさらに登っていく。道標のあるところで、休憩したが、その少し先に人里峠があった。峠では休憩しないで、そのまま山頂を目指す。

樹林帯を登っていくと、山腹が伐採されて非常に展望の良いところになる。まず、大岳山が見え、さらに御前山が見えるようになる。さらに行くと、セツ石山方面も見えてくる。雲取山かなと思ったが、セツ石山の影に隠れて見えていなかったようだ。はっきりとした山座同定はできなかった。



浅間嶺山頂にて

そこから2つほど小さなピークを越え、トイレやベンチのある広場に出る。山頂は、そのすぐ上だった。



展望の良い稜線を行く

山頂に出ると、さらに展望が広がる。富士山方面の南側は、低い雲に覆われて山が見えなかったが、北側はとてもよく晴れて、近くの山がよく見える。大岳山から御前山、そして奥秩父

方面まで見える。ここでも山座同定は難しくできなかった。

もう20年ほど前になるだろうか、このピークで若い二人の結婚祝いをに行ったことがある。山頂で大宴会だったことを思い出す。その時はFさんご夫妻も一緒だった。というより、Fさん夫妻の企画だったような記憶がある。今なら、酔っ払ってしまって満足に歩けないのではないだろうか？

山頂で写真を撮った後は、下山にかかる。時間的に早く、足もそろっているので、小岩に下って長時間バスを待つより、払沢の滝方面に下って、時間があれば滝見物をしようということになる。



払沢の滝にて

展望の良い尾根を歩き、冬枯れの落ち葉の広い尾根から、トラバース気味に下っていく。しばらく下ると、峠の茶屋に着く。茶屋の名前は、「みちこ」。今回紅一点のSさんの名前と同じだ。なんとなく親しみを感じる。しかし、今日は茶屋は休みだった。



ヤマガラ

そこから甲州古道を下る。そして車道に出て、

下っていく。途中、近道をする。真っ赤に色づいたモミジがきれいだった。足下には、タチツボスミシが咲いている。桜は十月桜だろうか？

バス停に着く前に弘沢の滝への近道があったので、弘沢の滝に行ってみることにする。整備された遊歩道だが、木の道が滑りやすく、要注意だ。木工細工の制作販売をしている建物を過ぎ、さらに行くと2段50メートルほどの弘沢の滝があった。水量はそれほど多くはない。みんなで写真を撮って引き返す。

★高取山（忘年山行）（12月9日）

参加者 会員(障害者3名、健常者12名)

今日は、2018年の最後の計画となる忘年山行だ。今年は丹沢南東部にある高取山で行う。天気予報は非常に良かったが、雲が多く、肌寒い一日だった。



新人賞の表彰を行う

東中学校前でバスを降り、近くの空き地で今年の最多参加賞や新人賞、精勤賞の表彰を行う。最多参加賞は、20回参加のNさん。障害者部門は10回参加のKさんだが、今日は参加できず、先週参加したときに賞品を渡していた。新人賞はMさん。年間6回の参加だった。10回以上参加の精勤賞は、IさんとSさんだった。今年は数年ぶりに参加したり、十数年ぶりにたくさん参加した方が多かった。

弘沢の滝入口バス停で、予定より30分ほど速い、ここが始発のバスに乗ることができた。ゆっくり座って帰ることができて、とてもラッキーだった。

記：網干

コースタイム

人里(9:50) … 人里峠(11:00) … 浅間嶺(11:35-12:10) … 弘沢の滝(14:30) … 弘沢の滝入口(14:45)

表彰式の後には、車道を歩いて高取山を目指す。緩やかに登っていた車道だが、途中からかなりの急坂となり、ジグザグに登るようになる。東京カントリークラブのゴルフ場が近づく。ハイキング道はこちらと書かれた案内板に従って少し下るが、すぐに登り返し、ゴルフ場の中を歩くようになる。キャディーさんに聞いたらこの道で間違いのないとのこと。



間違った道に行く

柵を越えて進んでいく。さらに登ると柵を越えるところがないので、そのまま柵に沿って歩いて行く。一部下るところもあった。さらに行くと柵は傾いたりするようになり、さらに先では、沢状のところ、地面が崩れていて、通過が非常に難しいところに行き当たる。足がずるずる滑るところを行ってみるが、ここを全員が通過するのは不可能と判断し、引き返すことにする。高取山は諦めて、車道を歩いて弘法山に行こうと思っていたら、途中で高取山はこち

らという小さな看板を見つけた。こちら側からはよく分かるが、登ってくる側からはよく見えない。ちょっと取り付け方が良くないようだ。

それでも、気を取り直して、正しい登山道を登っていく。急な階段が何度か出てくる。そこをがんばって登っていくと、高取山の山頂にたどり着いた。山頂には数人の登山者がいた。大山がよく見える山頂だ。ここで昼食タイムとする。江ノ島や横浜のランドマークタワーが見えている。



鷹取山山頂にて

高取山からは、念仏山を経て、弘法山に向かう。忘年会場に遅れないか心配だが、弘法山に向かうコースが一番近道とも思えたので、予定通りのコースを歩くこととする。



根っこの多い道を下る

山頂からの下りは、なかなか急で木の根が多く、時間がかかることが心配された。しかし、下りが苦手なMさんをMさんが絶妙のサポートをしてくれている。おかげで順調に下ることができた。

もう10月だが、まだところどころに赤く色づいたカエデが見られる。ゴルフ場を右手に

見下ろしながら山道を歩いて行く。ゴルフ場から離れると念仏山に到着する。ここからは、江ノ島や三浦半島、そして真鶴岬や伊豆半島方面がよく見える。これから向かう弘法山も俯瞰することができる。箱根方面は、雲間から差し込んだ光のカーテンの向こうに見える。



Mさんのサポートで下るSさん

念仏山から善波峠に下り、標識に従って弘法山に向かう。この付近になると登山道はとても歩きやすくなる。途中でエナガの群れに出会うこともできた。

弘法山山頂には、井戸水をくみ上げる手押しポンプがあった。少し休憩し、忘年会場に遅れないように先を急ぐことにする。

権現山には行かず、巻き道を行っていたはずなのだが、権現山の展望台に着いてしまった。特に休憩せず、すぐに下ることとする。時間も16時近くになり、少し薄暗くなってきた。権現山からは、急坂にジグザグに付けられた山道を下る。下りが苦手な人にはちょっときつい下りだ。



無事に下山し忘年会場へ

忘年山行は、いつも楽な山にしているのだ

が、今年は忘年山行にしては少しハードだった。

平地に下りた後は、夕暮れの空の下で、秦野駅近くの忘年会場に急いだ。次の予定のあるSAさんと別れ、予約した居酒屋で忘年会に突入する。今年の山仲間アルプ3大ニュースは、①NPO 法人から任意団体になったこと、②15周年を迎えたこと、③カムバックした方が多かったことになった。とても盛り上がり、今

★達磨山(1月6日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)

ずっと曇り予報だった今日は、関東地方は晴れの予報に変わった。しかし、伊豆半島の付け根付近には、雲を表すグレーの色が使われていたので、富士山を見ることはできないかなと心配になっていた。

当日は、良い天気で明けたが、伊豆半島が近づくと雲に覆われるようになってしまった。修善寺駅付近も曇り空だった。しかし、降水確率は20%程度だったので、雨の心配はないだろうと、タクシーに乗り込む。



予定では船原峠でタクシーを降りる予定だったが、車道はかなり歩くので、伽藍山手前の太平洋展望台(土肥駐車場)まで行ってもらうこととする。タクシーを下りるととても寒い。空はどんよりと曇っている。フリースもダウンも着込んで出発する。

年1年、事故なく登山を終えられたことを喜ぶことができた。来年もよろしく願いいたします。
記：網干

コースタイム

東中学校前(10:30)…高取山(12:25-13:00)
…念仏山(14:15-14:25)…善波峠(14:55)…
弘法山(15:20-15:30)・秦野駅(16:45)

歩きはじめると、ほんの少しだが小雪が舞うようになる。伽藍山の登りは、ほんの少しだが、ダウンなどを着ているので、暖まってきた。一面、笹原となる。振り返ると、猫越岳と天城山に通じる尾根が見えるようになる。



伽藍山を越えると、これから向かう達磨山が見えるようになる。晴れていれば、富士山はもとより、南アルプスもよく見えるはず。今日は、どんより曇って、裾野さえも見えていない。

この山域は、笹原の尾根が続く。展望が良いので、晴れていれば最高の尾根だと思う。昭文社の地図には地名が書かれていない古希山に到着。私ももうすぐ誕生日なので、古希まであと9年だ。それまでは、元気に仕事と山を楽しみたいものだ。

古希山を過ぎると、達磨山が正面に見える。達磨山を見ながら、一旦、西伊豆スカイラインに出る。そして、達磨山への登りにかかる。ここも、気持ちの良い笹原だ。振り返ると、歩いてきた道がよく見える。しかし、天城山方面は、

雲に包まれてしまっていた。

山頂に着くと、ご夫婦が休んでいた。達磨山は一等三角点の山。奥さんは、この付近の一等三角点の山をよく知っている。以前登った浜石岳も一等三角点とのこと。私はもうすっかり忘れていた。



展望の良い笹の尾根が続く

山頂で昼食を摂り、後から登ってきた女性3人グループの一人に集合写真を撮ってもらう。寒いので、ゆっくりしてられない。早々に下山にかかる。



達磨山にて

細かな雪が時々横殴りで降るときがある。小達磨山を過ぎると、降雪はかなり強くなってきた。しかし、細かな雪なので、積もることはない。今日は、スタートを伽藍山の直下まで上げたので、戸田峠から金冠山も往復することとし

★南山(1月26日)

参加者 会員(障害者2名、健常者5名)

た。

金冠山の向こうには、内浦湾や淡島、それに沼津アルプス、その左手に沼津市も見えていた。戸田峠に下りて、バスの時間を確認すると、計画したバスの前に発車するバスはない。金冠山を往復し、途中から山道を下って、だるま山高原レストハウスまで行くことにする。



広い道を下る

今回の登山道は、とても歩きやすく、ハイキング道のような。金冠山の山頂へも歩きやすい道が続く。アンテナのあるところが山頂だった。天気が悪くないので、遠くの山は見えない。少し休んで下山する。

ゴルフ場のフェアウェイのように広い道を下ってレストハウスまで行く。計画よりもバスに乗る時間を2分短縮できた。期待した富士山や南アルプスは見えなかったけど、正月でなまった身体を目覚めさせるには、ほどよい山でした。

記：網干

コースタイム

太平洋展望台(10:20)…伽藍山(10:30)…達磨山(11:30-12:00)…戸田峠(13:05)…金冠山(13:25-13:35)…だるま山高原レストハウス(14:20)

今回は、丹沢山塊の最も北東に位置する南山だ。相模原市の橋本駅に初めて降り立つ。立派な大都会のため、バス停がどこか、探さなければならない。片側がないことを確認して、反対

側のバス停でみんなで探し、乗り場を見つけることができた。バス停を確認してから、橋本駅で合流するFさん夫妻とKさんを探しに行く。無事に合流できて、バスに乗り、鳥居原ふれあいの館を目指す。



鳥居原ふれあいの館からの宮ヶ瀬湖

「鳥居原ふれあいの館」の「館」は「いえ」と読むようだ。ここでトイレを済まし、光る宮ヶ瀬湖の写真を撮って、出発する。登山口を間違わないように、慎重に探す。しっかりした道標を見つけて登っていく。

植林帯や雑木林を登っていく。木漏れ日が暖かく、うっすらと汗ばんできたので、衣類調整を行い、家から着てきたダウンジャケットを脱ぐ。1時間近く登った頃、鉄塔の下に飛び出した。そこは、都心方面の見晴らしが良く、スカイツリーや新宿のビル群がよく見えた。



青空が気持ちよい

鉄塔のすぐ先には宮之前方面に下る登山道の分岐点があった。少し急坂を登り、その後緩い道となり、さらに急坂を登ると、権現平に到着する。ここからは、横浜や房総半島方面がよく見えた。宮ヶ瀬ダムの向こう側には、高取山

や以前登った仏果山もよく見えている。



丹沢の蛭ヶ岳、丹沢山方面

権現平からは、少し階段で下り、緩やかな尾根を歩くようになる。そして、ほどなくして南山山頂に到着する。山頂は展望が素晴らしい。すぐ近くには、高取山と仏果山が見え、その右奥には丹沢山塊の大山が見える。その右には三ノ塔が見え、表尾根が塔ノ岳にせり上がっている。塔ノ岳はどのピークなのかははっきり分らなかったが、丹沢山につながる丹沢三ツ峰の一つ、本間の頭が手前に見えている。その右手には、丹沢山塊の最高峰、蛭ヶ岳が聳えている。さらに、丹沢主脈となる黍殻山や焼山も見えている。まだ歩いたことのない所なので、いつか歩いてみたいと思う。



南山山頂にて

山頂で昼食タイムとする。最初は、日が当たっていて、ぼかぼかしていたが、雲が増えてきて日が陰ると、途端に寒くなる。遠くに見える奥多磨方面は、稜線付近に雲がかかっている。KDさんが「あの付近はもう降っているかも知れない」と話していたが、雪が降り始めていたのではないかと思われる。計画よりかなり早い

が、山頂を後にする。

緩やかな尾根を下っていく。こちら、ほんの少しだが、小雪が舞う時間もあつた。日が陰ると、やはり寒い。



途中の展望の良い小さなピークからは、宮ヶ瀬ダムがよく見えた。さらに行くと、蕪尾根方面への分岐があつたが、あいかわ公園方面に下る。昭文社の地図には、公園への道が書かれていないが、YAMAP の地図ではこちらがメインルートになっている。

こちらの道は、木の階段が続く。段差も大きく、足には辛い下りだ。しかし、ようやく公園の最上部に着いたようだ。下る道がよく分から

★蓼科山・上高地(2月9日～10日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)

☆2月9日

今日は、関東で雪が降る予報だ。自宅を出る5時頃は、すでに細かな雪が舞っていた。八ヶ岳周辺は、日中の時間に数時間降る予報となっている。気温は、この冬で最も低くなりそうな予報だ。雨より雪の方が助かるが、視界が悪いと思われるので、気をつけて行こうと思う。

計画では、白樺高原国際スキー場から山頂を目指す予定だったが、スズラン峠駐車場からのコースの方が、今は一般的でトレースも多いようなので、急遽計画を変更して、スズラン峠側

なかったが、Sさんが公園内に入るトンネルを発見。ここから公園内を下ることとなる。しかし、公園内は迷路のようだ。どの道を下ったら半原のバス停方面に行けるのか、よく分からない。地図も右に左にと曲がっている。

少し歩いてはこちらではないということを経験して3回ほどくりかえし、ようやく公道に出た。あとは、道路を歩いて行けばバス停に着く。民家の庭木には、ジョウビタキが現れてくれた。最初は雄、次は雌が現れてくれる。

半原のバス停に着くと、すぐに出るバスが待っていた。計画より1時間半早い13時50分発のバスに乗って本厚木駅に向かう。この時間に帰れると、全豪オープンの決勝が最初から見られる。今日は、みんな早く帰って、大坂なおみを応援しよう。試合の結果は、最高でした。

記：網干

コースタイム

鳥居原ふれあいの館(9:55)…権現平(11:15-11:20)…南山(11:50-12:20)…あいかわ公園(13:05-13:10)…半原バス停…(13:50)

の蓼科山登山口から登ることにする。ただ、こちらは登りはじめの標高が低く、急坂が続く体力を必要とするコースだ。ただラッセルが続くよりは楽なので、変更したコースを上ってみる。

茅野駅からタクシーで登山口に向かう。蓼科温泉付近まではほとんど雪がなかった。雪の多い場所ではないが、この時期に全くないのもめずらしい。

女乃神茶屋前の登山口を登っていく。登山道に土の出ているところがあるくらい、積雪は少ない。まだ雪は降っていないが、すでに雲の中に入っていて、視界は20メートルほどだ。

順調に登り、2,113mの小ピークに着く。ここで昼食タイムとする。登山口の駐車場には十数台の車が止っていたので、かなりの人数が登

っていると思っていたが、それほど多くはないようだ。自家用車の人たちは、登山開始の時間が早いため、私たちが会える人は、みんな下山の人たちだ。



休憩場所からしばらく緩やかなアップダウンとなるが、いよいよ急坂が始まる。積雪も増えてきたので、視覚障害者のFさんたちは歩きやすいようだ。ただ、Iさんが遅れ始めた。

Iさんは、70代とは思えない体力の持ち主で、いつもみんなのサポートをしてくださっている。立ち止まって待つのは、プライドを傷つけるのではないかと思い、追いつくまでゆっくり登っていく。追いついたところで、少しペースを戻したが、Iさんにはそれがきつかったようで、追いついたところで少し立ち休憩をするべきだったと反省した。



Iさんは、調子が出ないので、途中で待っているという。寒いからゆっくりで良いから登ってきてくださいと言うが、途中で私たちと別れる。

Fさん夫妻は、日頃からランニングをしてい

ることもあり、体力がある。急坂をしっかりと登っている。すでに雪は降り始めており、この標高まで登ってくると、樹氷も見られるようになる。上から下りてきた人が、上はものすごい強風なので、ゴーグルが必要だというが、私はゴーグルを使ったことがなく、今日も持ってきていない。吹雪くと曇って見えなくなるので、結局ゴーグルは外すことになるため、若い頃に2回ほど使っただけで、その後は全く使っていない。



樹林帯を終えると、岩場となる。ここからは、やはり強い風が吹き付けるようになるが、この程度の風は冬山なら普通の風、というより少し弱い風のようにも思われる。



しかし、岩と雪のミックスなので、慎重に登っていく。岩場には鎖も付けられている。やや右寄りにトラバースしていくと夢科山頂ヒュッテに到着した。山頂標識は、そこから10mほどの所にある。無事に山頂に到着できた。

山頂は風が強く、霧に包まれていて、展望は全くないので、写真だけ撮ってすぐに下山にか

かる。岩場の箇所は特に慎重に下る。Fさん夫妻は、強風を正面から受けるため、まつげが凍り付いて、おじいさん、おばあさん状態になっている。

樹林帯に入ると風は非常に弱くなる。急坂だが、アイゼンが小気味良く決まり、快適に下れる。登りに1時間40分かかった2,113mまでは50分で下れた。ここでタクシー会社に電話して、約1時間後に迎えに来てもらうことにする。

Iさんが寒い思いをして待っているだろうと思い、急いで下る。一度だけ、夫のFさんが、足を途中の岩に下ろして、転倒したが、それ以外は順調に下っていく。

登山口に下りたとき、Iさんが女乃神茶屋から歩いてきて、合流できた。タクシーも、少し早めに来てくれて、予定よりかなり速い電車で松本に向かうことができた。

松本では、私が財布をなくしたと思い、大騒ぎになり、みなさんや警察の方などに迷惑をおかけしてしまったが、ポケットに財布があった。もう認知症が始まってきたのかも知れない。



1.3km ほどある釜トンネルを歩く

☆2月10日

松本バスターミナル発高山行きのバスは、7時50分発。ホテルでゆっくり朝食を摂ってから出発する。

今日は、好天の予報だが、北アルプス方面は低い雲に覆われていて、山は全く見えない。新島々の手前までかなりの雪が降っていた。今日は、降る雪の中を歩くことになるかなと思って

いたが、途中から青空が広がってきた。

山に近づくと再び雲が広がるようになっていた。中の湯でバスを降り、釜トンネルの中を歩く。トンネル内は、11度の傾斜がある登りだ。釜トンネルを抜けるとすぐに上高地トンネルが始まる。ここも、途中から登り坂になっている。



大正池にて

上高地トンネルを出たところで休憩する。多くの人が歩いていて、氷っていないので、アイゼンは付けないことにする。IさんとNさんは、スノーシューを付けたが、途中で外した。

太兵衛平のカーブを回り込むと穂高連峰が見えるはずだが、今日は下の方まで雲に包まれて見えない。道を下っていくと大正池の取水口に着く。一部氷っているが、上流側は氷っていないようだ。



大正池

大正池ホテルの裏側で休憩する。昨年6月のキャンプできたときもここで休憩した。当然、今回は一面、雪の世界だ。

ここから、車道沿いに行くつもりだったが、遊歩道を多くの人たちが歩いていて、つぼ足で

も全く潜らないため、遊歩道を歩くことにする。



今日は、日が差したり、雪が舞ったりを繰り返す天気だ。山の稜線は吹雪いていると思うが、上高地はほとんど風はない。気持ちよく歩ける。積雪は1mほどだろうか、地面の様々なものを隠し、一年の雪原になっている。冬の上高地でなければ味わえない、純白の雪原を楽しみながら歩く。梓川は氷ることなく、夏と同じように流れている。その畔を歩いて行く。



雪原をスノーシューで歩く人もいる。見上げると、六百山と霞沢岳につながる稜線も見えてきた。穂高方面も見えるときがあるのではないかと、歩きながら何度も見上げる。一瞬だけ、ジャングルが見えるときがあった。

なんとか、河童橋まで行って、昼食にしようと思ったが、バスターミナルのベンチでお昼にしたいという意見があったので、そこで昼食とする。カップラーメンを食べた後、河童橋に行きたいという夫のFさんと二人で河童橋に向かう。妻のFさんは、トイレの順番待ちで遅くなってしまったようだ。



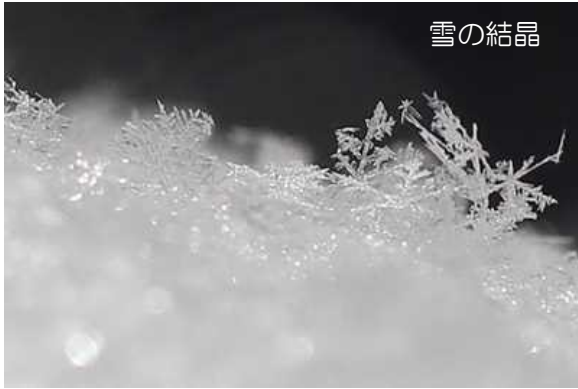
河童橋で、写真だけ撮ってすぐに戻る。妻のFさんとKさんも戻っていた。中の湯15時発のバスに遅れたら困るので、急いで戻ることにする。



時間を気にしつつも、穂高が姿を現してくれないか、何度も振り返り、振り返り歩いて行く。みんなから少し遅れて歩いていると、田代橋の下の梓川にカワガラス発見。雪の表面の結晶をマクロレンズで写真に収めたり、田代池の写真を撮ったりしながら、ストックで漕ぐようにして急ぎ足でみんなに追いつく。

上高地トンネルを出たところで、焼岳が姿を現してくれた。釜トンネルを歩いていると、妻のFさんが、路肩に足を取られて転倒したようだ。額の左側をぶつけてしまい、雪で冷やしながら歩いていた。

中の湯からバスに乗ると、吸い込まれるように爆睡してしまった。白銀の穂高連峰は見えなかったけど、雪の上高地を楽しむことができました。みなさま、お疲れ様でした。 記：網干



コースタイム

★伊予ヶ岳(2月24日)

参加者 会員(健常者9名)

今日は、Aさんから突然の指示、体調不良により参加出来なくなり、リーダーをやることになった房総の伊予ヶ岳。自分が想像していた336.5mの千葉県の山とは、まったくちがう山であった。

千葉駅に集合し、JR内房線で岩井駅までの電車の旅。車中では、久しぶりの仲間との話が弾む。窓外には、さすが千葉県たぶん河津さくらであろう桜並木が満開かと思わせる程でさくらまつりののぼりも見えた。時々海も見え春の装いを感じながら電車の旅も終わりに近づき岩井駅に到着。



トミー号というかわいらしいバスが発車す

2/9 蓼科山登山口(10:15)…標高2,113m(11:45-12:05)…蓼科山(13:45-13:50)…2,113m(14:40-14:45)…蓼科山登山口(15:40)

2/10 中の湯バス停(9:30)…大正池ホテル(10:50-11:00)…上高地バスターミナル(12:05-12:35)…中の湯バス停(14:40)

るまでの50分間いつもの声出しをすることにした。Aさんの様には、いかないだろうという思いを伝え、皆さんにフォローをお願いしながら安全にまいりましょう!とバスは、出発。小さなバスの為何人も立ったままの人がいる。15分程で平群天バス停に到着。平群天神社へ抜ける大鳥居をくぐると樹齢1000年とも伝えられる夫婦楠木があり、そのエネルギーをもらって今日の安全登山をお願いした。



この神社の横が伊予岳登山口。細い山道に入り梅林がほのかな香りを漂わせ、雑木林から杉林へと続き、

急になっていく山道をジグザグに登り展望台に到着。しばしのどかな風景を楽しみ、これから現れる岩登りに備える。ロープや鎖が続き、皆で一步一步確実にゆっくりと足元・手がかりをきちんと確かめながら登るように声を掛け

あった。経験の少ない人の前後には、経験豊富な人に入ってもらい、緊張感の中にも笑いが起こる雰囲気です。無事南峰に到着。



伊予ヶ岳南峰にて

鎖が掛けられているものの下を見ると足がすくむ。富士山は、見せて貰えなかったけれども富山がきれいに双耳峰を見せてくれた。いつまでも展望を楽しみたいところだが、狭いため早々に北峰へ向かう。いくつかのアップダウンをへて北峰到着、こちらから眺める南峰には、すっぱり切れてその上を歩いている人影がかすかにみえた。こちらこそ次の方達へとゆずり南峰へ戻る。下山へと心を新たに気合を入れて出発。

さあこれからいよいよあの登って来た岩場を下るのである。ここで皆さんが持参しているありったけのシュリングとカラビナを使いHさんとFさんにシュリングを腰に付けて荷を軽くしてもらい、身体のバランスを崩さないように男性陣に確保してもらいながら前後を固め足元を確実に決めてから移動すること、そして後ろ向きにロープを使い下りてきた。全員が無事に到着し、笑顔で昼食をとることが出来まずは、一安心。



下りは登り以上に慎重に

来た道を神社へと下りてきた。後ろを振り返ると南峰がすぐ近くにそびえていた。初めてロープで確保さ

れ下山した人は、充実感でいっぱい怖いと言ってくれた。“笑顔で終わろうね”を合言葉にみんながんばりました。チームワークがきわだった山行になったかな。

たよりないリーダーを支えてくれた皆様に感謝です。ありがとうございます。伊予ヶ岳 あなどるなかれ！ 記：中村、写真：酒井



登ってきた伊予ヶ岳を振り返る

コースタイム

伊予ヶ岳登山口(10:40)…富山分岐(11:00)
…展望台(11:20)…南峰(11:50)…北峰
(12:05)…南峰(12:20)…展望台(13:20-
13:45)…平神郷バス停(14:20)

ハイキング報告

★第55回ふれあいハイキング（仙元山・富士山）（11月17日）

参加者 会員(障害者2名、健常者5名)

木曜日まで雨の予報だったが、金曜日になって晴れに変わり、当日はすばらしい快晴に恵まれた。しかも、比較的穏やかで暖かい小春日和だ。

今日は、バスやタクシーは使わない駅からハイキングだ。小川町駅から歩きはじめる。陸橋を渡って線路を越える。これから登る富士山が目の前に見える。富士山は、「ふじやま」と読むらしい。Iさんがネットで調べたところ、登山口がはっきりせず、藪漕ぎをして登ったという報告もあったらしい。とにかくスマホで地図を見ながら、一番近くまで行き、最後が消えている舗装道路を登ってみることにする。展望のよい新しい高級住宅街を過ぎ、舗装道路の行き止まりとなるタンクのある施設の横にあった山道を登ってみる。

短い急坂を登ると、もうそこが富士山だった。アンテナの鉄塔が建っている。石でできた山頂標識は、昭和55年に建てられたものだ。石でできた古い標識は途中で折れて、後に立てかけられていた。ここで、集合写真を撮る。



富士山山頂にて

山頂からははっきりした道を進んでいく。歩く人が少ないため、蜘蛛の巣が道を塞いでいる。

落ちていた木の枝を振って蜘蛛の巣を払いながら行く。しばらく歩くと舗装道路に出る。車道に出ると、花和楽の湯があった。趣のある作りで、敷地も広い。入ってみたいくなるが、それは次回にしよう。ここからもスマホで現在地を確認しながら車道を歩く。



富士山から山道を下る

途中のウエルシアでトイレタイムとする。さらに橋を渡って仙元山の登山口を探す。ところどころに道標があるので助かる。

「仙元山遊歩道」と書かれたところから山道に入る。気持ちよい雑木林の中を登る。山道には木の階段が作られているが、これは、埼玉県「ふるさと創造資金」の補助で作ったそうだ。しばらく登ると、上の方から子どもの声が聞こえてくる。長いローラー滑り台などのある仙元山見晴らしの丘公園が近づいたのだろう。

見晴らしの丘公園には、かなり高い展望台がある。そこに上がっていると、赤城山や榛名山、そして日光の男体山や女峰山も見える。下には小川町の町並みが広がり、遠くには武甲山の頭らしき山も見えていた。近くには笠山や堂平山も見えているはずだが、特徴がなくてよく分からない。

見晴らしの丘公園を後に、山頂に向かう。公園の外れには十月桜が咲いていた。いろいろな道があるようなので注意しながら進む。

トランを楽しむ人たちとすれ違いながら、

雑木林を歩いて行く。紅葉したイロハカエデが、逆光に輝いている。木漏れ日が気持ちよい。3回ほど、アップダウンをくりかえし、東屋を過ぎたところに山頂があった。展望は、一カ所だけ伐採したところがあり、そこだけしかない。切れたところから風が吹いてきて寒いので、東屋に戻って昼食タイムとする。



仙元山に向けて広い山道を歩く

東屋からは、登ってきた道を少し戻り、見晴らしの丘公園を通らずに小川町駅に向かう道を下る。ここも雑木林がきれいだ。



仙元山山頂にて

舗装道路に出て車道に行く。八高線の電化されてない単線の線路が延びる踏切を渡る。さら

に車道を歩き、小川町役場の前を通って小川町駅に着く。駅の手前で、M君がローソンに行くという。いつものパターンなので、ローソンで飲み物を買ひ、計画より30分早い電車に乗って帰路についた。

記：網干

《参加者の感想》

里山の秋を満喫しました。コスモス、カラスウリ、四十雀、青鷺、焚き火のにおい…里山と言っても、新しい住宅地や大きなマンション、量販店もある街中を通り、富士山は「まだ残っている裏山」にお邪魔したような感じでした。

仙元山では群馬方面からの冷たい風をうけながら、山々を見渡せた展望台からの眺めが良かったです。

展望台には昇らなかった長男、今回の印象に残ったのはSさんと一緒にみた「川に魚がいた」とことと答えました…目線は下だったようです。

陽が高い中での気軽なハイキング、帰宅後も余裕があり、有意義な一日になりました。ありがとうございました。記：F.I

コースタイム

小川町駅(9:10)…富士山(9:45-9:55)…仙元山登山口(10:50)…仙元山見晴らしの丘公園(11:10-11:30)…仙元山(12:00-12:35)…小川町駅(13:30)

★第56回ふれあいハイキング(めだかの学校)(2月3日)

参加者 会員(障害者4名、健常者8名)

節分の今日は、素晴らしい天気恵まれた。小田原駅集合が多く、新宿駅から一緒に行くの

は、Sさんだけ。しばらく、車内で熟睡していたが、海老名付近から大山が見え始める。新松田を過ぎてしばらく行くと、富士山がよく見えるようになる。小田原まで行くと、箱根の裏に隠れるため見えなくなるが、車窓からの富士山が楽しめて良かった。

小田原駅で全員集合。久しぶりに参加したM

さんが、気象神社の「てるてる守り」をみんなにプレゼントしてくださる。晴天を願うと共に、持つ人の心も晴れやかになるよう祈念すると書かれている。今日は気持ちよく歩けそうだ。



アメンボとその影

まずは、小田原駅を背にして、「めだかの学校」を目指す。童謡「めだかの学校」は、終戦間もない頃、作詞家の茶木氏が、6歳の長男と山を下りてきたところ、荻窪用水で泳ぐメダカを見つけ、長男がメダカを見つけたが、茶木が覗くと隠れていなくなってしまった。その時、長男が「ここはめだかの学校だからまたくるよ」といったとのこと。その後、NHKから茶木に童謡の歌詞作成の依頼があり、その時のことを思い出して作ったそうだ。今回訪れたところがその舞台だ。



めだかの学校にて

めだかの学校には、水車小屋があり、作られた小川が流れている。メダカは見つからなかったが、用心深いので隠れていたのだろう。代わりにアメンボを見ることができた。アメンボを見るなんて何十年ぶりだろう。小川の平らな底にできた影が面白い。足は細いのに、大きな丸

い影ができています。足が表面張力で浮くために、足の周囲がくぼんでいるため、丸い影ができるのだろう。



大空を舞うノスリ

めだかの学校の後は、地図を頼りにいこいの森に向かう。途中に直径4mほどの大きな水車があった。水の流れを動力として水車を回し、その力で、精米や製粉、製糸等を行っていたらしい。

水車を見た後は、小田原厚木道路の下を歩いて西寄りに進む。車道の先に建物などが見えてくると、そこがいこいの森だ。竹林の中の階段を登っていく。最年長のMさんは、少し遅れているものの、階段を元気に登ってくる。Iさんがしっかり寄り添って、最後を固めてくれた。



いこいの森にて

駐車場の人に聞くと、右寄りに行くと広場があるので、お昼はそこで食べた方が良いと教えてくれた。見晴らしも良く、イスになる石もあり、そこで昼食タイムとする。手前にある笹の向こうには、相模湾も見えていた。箱根の明神ヶ岳も見える。

いこいの森は、さらにその奥に続いているだ

ろうと思い、昼食後、歩いて行くが、スマホで現在地を見ると、いこいの森から遠ざかっている。引き返して、さっきの駐車場に戻る。そこからバス停のあるわんぱくランドに行く。バス停で、Mさん夫妻とお別れする。お二人は、ここからバスで帰ることにする。



わんぱくランドに入り、展望の良さそうな階段を上がる。予想通り、丹沢の山々がよく見える。大山から、三ノ塔、塔ノ岳、そして檜洞丸

と思われる山も見える。

帰りは、別コースにしようと、地図で探した道を歩いてみるが、地図にない道もあるのか、いつの間にか来たときの道に出てしまった。それでも、途中から水之尾毘沙門天方面に行く。毘沙門天には寄らず、そのまま小田原駅方面を目指す。

途中、丹沢方面がよく見えるところや、相模湾のよく見えるところを通過し、駅の近くでは小田原城も見られた。計画より、かなり早く小田原駅に着いた。JRで帰る人も多いので、ここで解散にする。お疲れ様でした。 記：網干

コースタイム

小田原駅(10:25)…めだかの学校(10:45-11:00)…いこいの森(12:10-13:00)…小田原駅(14:40)

その他活動報告

☆臨時総会開催

平成31年1月19日に、来年度の計画を決める臨時総会を開催しました。一部、予定を

変更していますので、今回お送りしました2019年度年間計画を再確認願います。

各種連絡事項

★活動紹介映写会&大人と子どものふれあい登山説明会

活動紹介映写会及び伊大人と子どものふれあい登山説明会を右記の通り予定しています。ぜひ都合を付けてご参加ください。

日時：平成31年3月10日(日)

14:00~16:00

場所：八千代市総合生涯学習プラザ
多目的ホール

会員情報

◎新入会員のお知らせ

11月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしく願います。(敬称略)

正会員

1名

●退会のお知らせ

残念ですが、3月以降、下記の方が退会されました。(敬称略)

1名

編集後記

・会長のつぶやき

企業やNPOにとって、経営理念やビジョンは、とても大切なもので、目指すべき方向を示す道しるべのようなものです。

私が普段勤務している介護のNPOは、27年前にボランティア活動を開始し、介護保険ができた17年前に介護保険指定事業者となって事業を行って来ました。

現在働いている人たちは、収入を得るために一所懸命に働かなければならない人がほとんどで、設立当初のボランティア精神は薄れてきています。

そのような中で、抵抗を示す方もいたのですが、経営理念を見直し、もう一度、自分たちの進む方向を確認する作業を進めています。

山仲間アルプは、自分が障害を持ったとき、ボランティアなど特殊な人しか関わってもら

えなかったら寂しく感じるのも、そういう思いをしないで良いように、障害の有無にかかわらず、普通の人間関係を築き、様々な活動を通して、誰もが感謝と思いやりの心を持って人と関われる「心豊かな社会づくりに寄与する」ことを目的として設立されました。

会を始めただばかりの頃、ある視覚障害者の方から、阪神大震災でボランティアが注目され始めたばかりなのに、ボランティアの先に進みましようというのは早すぎると忠告していただきました。

でも、山仲間アルプは、ボランティア団体ではないということを大切に活動してきましたし、これからも理念を大切に、活動を行っていきたいと思います。

・次回発行予定は、7月頃を予定しています。

参加申し込みやお問い合わせは下記まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

山仲間アルプ 網干 勝

TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

